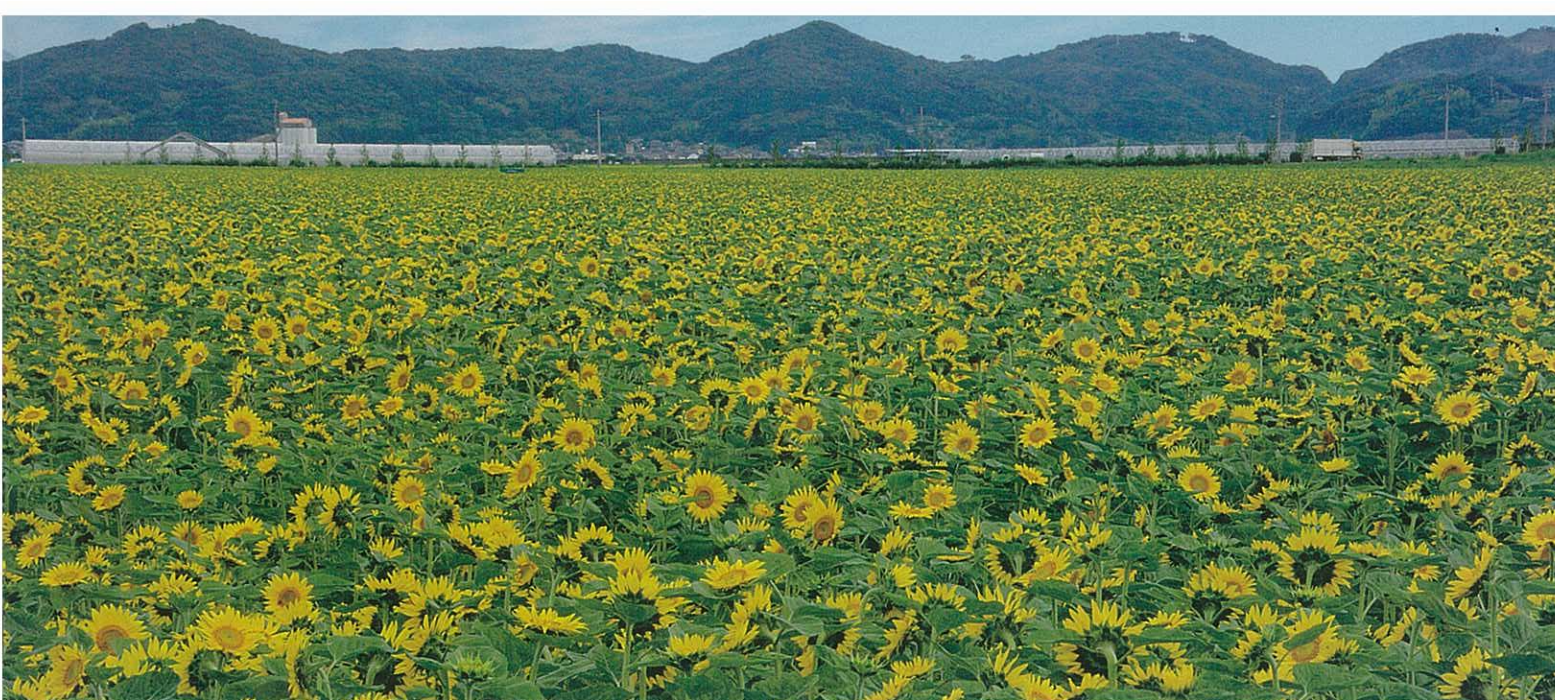




諫早湾干拓地と周辺地域における開門調査の影響

諫早湾干拓調整池やその周辺には様々な生き物が住み、
広大なビオトープが形成されています。

昔のような洪水の心配もなく、地域の人々も安心して
生活できるようになりました。

ミネラル豊富な諫早湾干拓地ではたくさんの安全・安心な
野菜ができています。

しかし、排水門を開門すると、
この安定した状況は失われてしまいます。

それでも、開門するのですか？

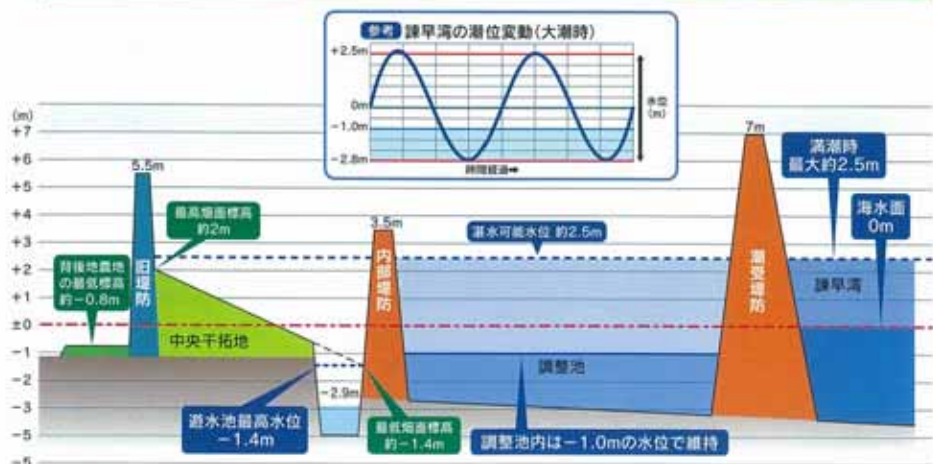


もっと詳しく知りたい方へ ホームページ

長崎県諫早湾干拓室

長崎県 諫早湾干拓事業

検索



新たな干拓地では既に農業が始まっています。また、多様な生物の営みも育まれています。



3 事業の効果

防災効果の発揮

高潮被害の防止

潮受堤防が高潮、波浪を遮断するため、台風時においても、高潮被害が生じることはなくなりました。

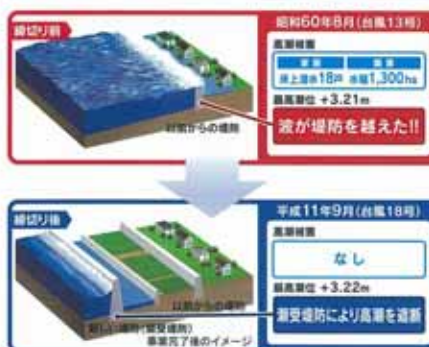
洪水被害の軽減 (①～③を参照)

調整池の水位を低く管理することにより、大雨時においても標高の低い背後地の雨水はスムーズに調整池に流れ込み、潜水被害はほとんどなくなりました。

排水不良の改善 (①～③を参照)

日常の排水についても、調整池の水位を低く管理することで、潮の干満に関係なく、背後地から調整池へ排水することができるようになりました。また、背後地に設置されている排水樋門前のガタ土の堆積がなくなり、維持管理が楽になりました。

潮受堤防の締切り前後の高潮被害の比較



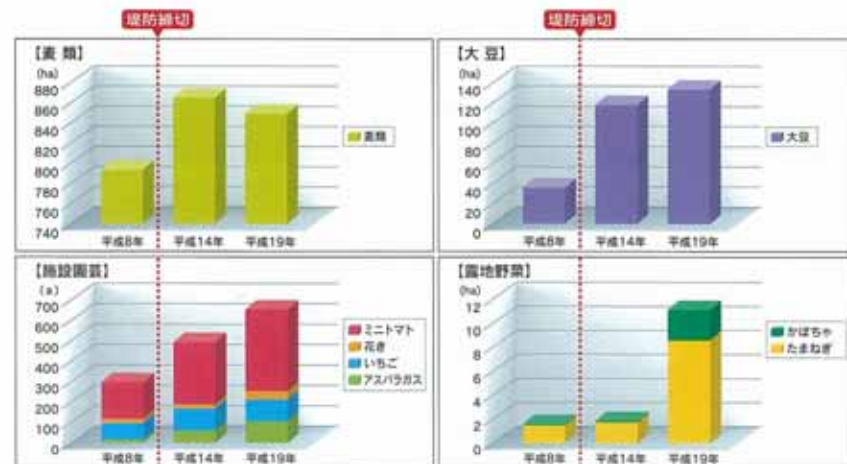
大規模な営農の開始

平成20年4月より、新たに完成した諫早湾干拓地では本格的に営農が開始され、ばれいしょ、たまねぎ、レタス、しょうがなどが栽培、収穫されています。

諫早湾干拓地の農業者全員がエコファーマー(土づくりや減化学肥料・減農薬などの環境に優しい農業に取り組む農業者)の認証を取得するなど、環境保全型農業(左の全体写真の左上欄を参照)の実践に取り組んでいます。

その他の効果

潮受堤防の締切り前は、周辺農地でも塩害の心配があり、稲作以外の作物の栽培が困難であったことから、裏作や転作が進みませんでした。締切り後は、塩害の心配がなくなったことや、排水が良くなったことから、裏作や転作、さらにはハウスなどの面積が拡大しています。



4 安心して野菜の栽培ができなくなります。

- 672haの干拓農地では、本年4月から41経営体が本格的に営農を開始しています。また、約3,500haの背後地の農地は、県下最大の穀倉地帯となっています。
- 塩害がないことを前提に、干拓地の入植者全員が減農薬や無農薬による環境保全型農業の畑作を実施し、周辺農地でもハウス等の野菜づくりが活性化しています。かつては、塩害の心配があり、稲作以外は栽培が難しい状況でしたが、堤防締切り後は塩害の心配がなくなり、畑作が可能となりました。

調整池への海水の導入により、干拓地の営農用水が確保できなくなるとともに、干拓地のみならず背後地の農地でも、地下からの塩分濃度上昇や台風時の潮風害の発生が心配されます。

農業者は安心して畑作営農ができない。

周辺農地のハウス(諫早市)



畑作物の塩分に対する強さは、コメの半分以下。

※農業用水に含まれる塩分(塩素イオン濃度)の目安

水稲の農業用水… CL⁻(塩素イオン)濃度500~700mg/l 以下

畑地かんがい水… CL⁻濃度 200mg/l 以下

塩分による生育障害の例

●農業用水のCL⁻濃度が目安より大きくなると……

たまねぎやレタスなどの発芽率の低下などが発生しやすい。

●土壌中の塩分濃度の上昇によっても塩害は発生……

いちごなどは、土壌中の塩分濃度に敏感なため、塩害が発生しやすい。

●ばれいしょは、塩害に対する抵抗性が弱いとされている

5 調整池やその周辺の自然環境が破壊されます。

- 平成9年の堤防締切り以降、調整池には淡水系の生態系が形成されています。
- 調整池および周辺干陸地で約240種の植物や約300種の昆虫類のほか、多くのほ乳類、両生類、は虫類の生育・生息が確認されています。

海水導入により調整池の生態系を破壊

H14の短期開門調査時にも多くの魚類や貝類が死



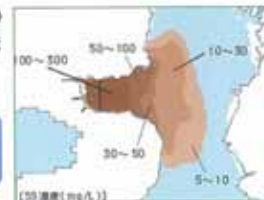
短期開門調査時の死魚回収の状況

6 諫早湾や周辺海域への影響が心配されます。

- 潮汐の変化により、毎日2回、平均6,000万トンの海水が流入・排水されます。
- 排水門周辺でガタ土を巻上げるような早い流れが発生、諫早湾外にまで濁りが拡散します。

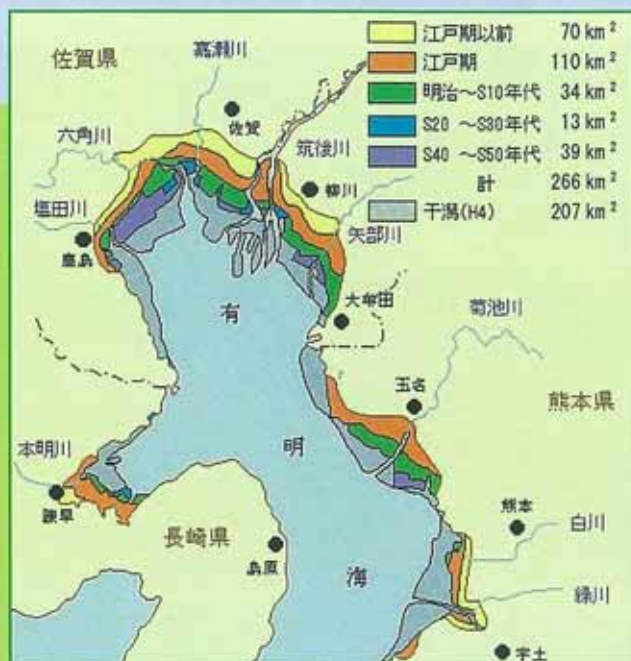
調整池内の大量のガタ土が混ざった水が排水門の外側のガタ土をえぐりながら流出し、諫早湾外にまで広がります。

拡散した結果、ガタ土が諫早湾内の魚介類に環境的な影響を与える可能性があります。

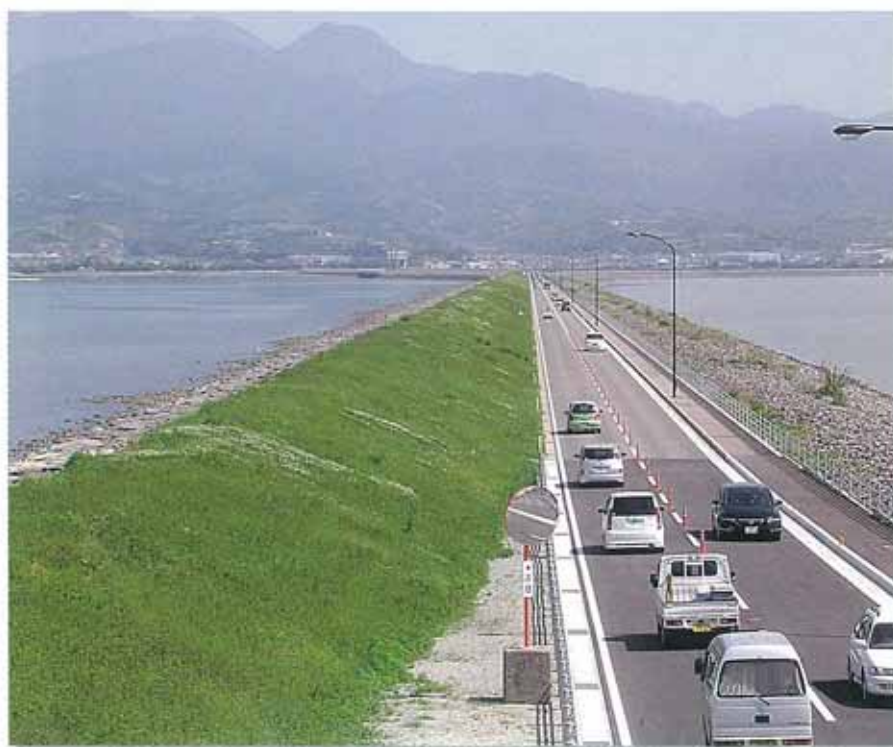


干潟の成長と干拓

有明海は約1,700km²の広大な浅い海であり、干潮時には海岸線から5～7kmの沖合にまで干潟が現れます。有明海に干潟ができるのは、土砂や有機物を運ぶ河川があることや地形などの条件が満たされているためと言われており、干潟の成長は多いところでは1年に5cmも堆積します。干潟の成長によって、干潟の奥にある陸地からの排水が困難となります。このような状況を改善すること、新たに農地をつくるために、有明海では江戸時代以前から干潟の干拓が続けられ、これまでに260km²を超える面積（釧路湿原の約1.5倍）の干拓が行われました。



有明海の干拓の歴史



【潮受堤防道路】

諫早市と雲仙市を結び、佐賀～島原方面の時間短縮と交流促進に寄与しています。

上写真(左:諫早湾、中:潮受堤防道路、右:調整池)

右写真(潮受堤防中央部の歩道橋と駐車場)



お問い合わせ先: **長崎県農林部諫早湾干拓室**

〒850-8570 長崎県長崎市江戸町2番13号
TEL.095-895-2051 FAX.0957-27-0030
E-mail:s07050@pref.nagasaki.lg.jp

もっと詳しく知りたい方へ ホームページ

長崎県 諫早湾干拓事業 検索

発行:平成20年11月